

活躍している人は輝いています。💡
そんなキラキラする人を紹介。💡

今月の

きら★びと

HITO 病院

糖尿病内科 部長
外来医長
糖尿病センター長

扇喜 真紀 医師

profile おおぎ・まき

1970年生まれ。父の影響で、中学生時代から医師の道を志す。2002年より医療法人黎愛会石川病院（現HITO病院）消化器内科医長、2015年4月より社会医療法人石川記念会HITO病院内科部長、糖尿病内科部長、同年11月糖尿病センター長兼任、現在に至る。2児の母。ワインが大好き。

「東予で一番の糖尿病治療」を目標とするHITO病院で約3500人の糖尿病患者のケアを行うなど同病院の糖尿病センター長として第一線で活躍する扇喜真紀医師に話を伺いました。

生活習慣病の一つである糖尿病は、運動不足、食生活の乱れなど、諸々の要因が重なり発症しますが、初期症状があまりないため、見過ごされやすい病気です。治療に多くの時間を要するため、糖尿病治療を途中で止めてしまったり、思うような効果が得られず不安を抱えたりする患者さんも中にはいらっしゃいます。

治療という名の「お手伝い」

だからこそ私は、患者さんが糖尿病という病気と向き合っている、自ら取り組む、治療という名の「お手伝い」をしたいと考えています。患者さんのライフスタイルや病気に対する受け止め方はさまざまです。一人ひとりに合わせた言葉掛けやアプローチを行うことで、安心して治療を受けられるように、そして健康に過ごせるように、糖尿病センターのスタッフと共に「お手伝い」をします。

先日、101歳のご高齢の方が診察に来てくれました。ご高齢で車椅子での来院、

診察までの待ち時間はご本人にとっては、苦痛かもしれません。でも、「先生、また来たよ。いつもありがとね」と私に大きな声で元気に話してくださいます。私は、患者さんが「健康で長生きしてくださること」が何よりも嬉しく、感謝の気持ちで心が満たされます。実は涙が出るほど幸せなひとときだったりします。

病気の治療には早期発見が大切です。そのために定期的な健診を受け、要治療・要精査となった場合は、必ず病院を受診するように心掛けてください。これからの季節、熱中症や脱水症状などに注意し、元気にお過ごしください。

